

## 乳児死亡ゼロ 全国初の達成から50年

### 記念行事 7月22日に

昭和37年、旧沢内村が全国初の乳児死亡ゼロの金字塔を樹立してから今年50周年を迎えました。それを記念してNPO法人「深澤晟雄の会」と同じ「いのちネット」を中心に実行委員会を組織して7月22日に記念行事を開催することになりました。

記念行事では「第3回いのちの灯文化賞」贈呈式を深澤晟雄資料館前で行ったあと会場を沢内バードンに移して「乳児死亡ゼロ50周年記念式」を行います。詳しくは後日チラシ等でご案内しますが、町民皆さんのご参加をお待ちしています。



医師・保健師・栄養士が一体となって行われる乳幼児健診は、健診スタッフの指導に聞き入る母親の表情も真剣そのもので、乳児死亡率低下に大きく貢献しました。

乳児死亡率ゼロへの推移

昭和	全国	岩手県	旧沢内	旧湯田
22	76.7	97.9	—	—
24	62.5	88.8	86.8	—
31	40.6	66.5	69.6	40.0
35	30.7	48.5	25.2	59.1
37	26.4	41.8	0	25.4
39	20.4	31.8	21.7	0

## 生命行政5年目の快挙 死亡率ゼロへの道程

乳児死亡率は年間出生数1000人に対する1歳未満の乳児死亡数の割合で表されます。戦後の昭和22年調査に西和賀の記録はありませんが、岩手県平均98前後（別表の小数点以下四捨五入、以下同じ）と推測されます。また、大正7年には全国189、岩手県216という驚くべき死亡率が記録されています。

昭和31年岩手県で乳児死亡率半減運動が始まりました。同年の死亡率は岩手県は全国一の67、沢内村はそれを上回る70、まさに沢内村は全国最悪の死亡率だったのです。

翌32年に深澤晟雄が村長に就任するや保健婦3人を採用。妊婦・乳児健診や社会教育による学習活動を通じて「健康な赤ちゃんを産み育てる運動」を展開、35年には死亡率半減運動の目標を更に下回る25に下げました。

36年4月乳児の医療費無料化施策も功を奏して、37年全国初の乳児死亡率ゼロを達成しました。同年全国26、岩手県42の数値からして「死亡率ゼロ」はまさに金字塔。深澤村長就任5年目の快挙でした。

# 梶雄の心を永遠に ⑤ 胸像に誓う



最終回の今号に出てくる「止揚(ししよう)」とは哲学用語で「理想と現実」のように対立する二つの概念を新しい調和と秩序のもとに統一すること。と辞書の解説です。「哲学のない政治家は信用できません」と言った深澤村長の人間性を象徴する趣意書の文面です。

## 理想を現実化し 民意の活性促す

世の多くの場合、理想を揚げながら実践の伴わない者、実践に徹しなから理想の定かならない場合が少なしとしませんが、完全な止揚者を氏に見ることができません。理想と現実の止揚ということが、六千村民に自由にして意欲的な部



雪の中を村葬会場(沢内一小)に向かう村民の列

署を与えることであり、そこに村民の結集があったのです。「現在の沢内がまだ私を必要としているように思う」という言葉はまさにそのとおりであり、氏の逝去を全村民の名において悼むゆえんです。

ひるがえって本村十年の歩みを思うとき、六千村民は沢内村発展の大行進を続けてきたのだと思えます。その先頭に立って一切を指揮したのが深澤村長であり、時には最後尾にあって行進の前途の幸先を祈ったのも氏であったのです

道路行政も医療行政も土木・農業・教育行政もその業績が大きければ大きいだけ氏と共々の大行進がもたらした栄誉だと思えます。

## 遺志継ぎ伝える 大行進の道標に

今、仮に氏の為の顕彰碑のことを聞いたら謙虚な氏は「それは、むしろ六千村民自身の為に建てるべきであり、私こそ生前に寄せられた皆さんの好意と支援に感謝を捧げている」と言うに違いないと思えます。

私たちはその言葉をそのまま素直に受けてよいと思えます。深澤前村長によって奏せられた沢内村六



胸像除幕式で除幕を終えた故ミキ夫人と孫の真紀子さん

千の大行進は氏が去った後なお続いており、これからも沢内村の存在する限り続けなければ、続けさせなければならぬ大行進です。氏の逝去が痛恨限りないことであっても、この世紀の大行進の挫折は許されないと思えます。氏のしかばねを乗り越えて進むことこそ氏の切なる願いと考えられます。

逝去された氏の顕彰碑はこの十年間躍進を続けた大行進の道標として、子々孫々に伝える義務が私たちにあるのではないのでしょうか。

(おわり)